

平成24年2月の解説（府県天気予報）

【2月の天候状況】

上旬は、旬のはじめと旬末に冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が流入して北日本から西日本にかけての日本海側を中心に大雪となった所がありました。旬の中頃は本州の南岸を通過した低気圧の影響で、東・西日本の太平洋側を中心に広い範囲で雨や雪が降りました。沖縄・奄美では、寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

中旬は、冬型の気圧配置となった日が多くなりました。旬のはじめと中頃以降に強い寒気が流入して北日本から西日本にかけての日本海側を中心に大雪となった所がありました。旬の前半は日本の南海上を通過した低気圧の影響により、東・西日本の太平洋側を中心に広い範囲で雨や雪が降りました。沖縄・奄美では、旬の前半は前線の南側となり晴れの日が多く、後半は寒気や気圧の谷の影響により曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、旬の前半は移動性高気圧に覆われた日もありましたが、北海道付近や本州の南岸を通過した低気圧や前線の影響により、北日本および東・西日本の太平洋側を中心に広い範囲で雨や雪が降りました。旬の後半からは一時的に冬型の気圧配置が強まり強い寒気が流入して、北・東日本の日本海側を中心に大雪となった所がありました。旬末には、日本の南海上を通過する低気圧の影響により、東日本の太平洋側でも大雪となった所がありました。沖縄・奄美では、旬の前半は前線の影響を受けることが多く、後半は寒気の影響を受け、曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、北日本から西日本にかけて低くなりましたが、沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、西日本の日本海側でかなり多く、北日本の日本海側、東・西日本の太平洋側で多くなりました。北日本の太平洋側、沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、西日本でかなり少なく、北日本の日本海側、東日本、沖縄・奄美で少なくなりました。北日本太平洋側では平年並でした。

【2月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より1ポイント低い82%で、明後日予報は例年値より1ポイント高い81%となりました。各地方の適中率では、明日予報は沖縄地方で4ポイント高く、九州北部地方で6ポイント低くなりました。その他の地方では例年値程度の所が多くなりました。明後日予報は例年値程度の地方が多くなり、関東甲信地方と近畿地方で4ポイント、東海地方と九州南部地方では6ポイント高くなりました。九州北部地方では8ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は例年値程度の地方が多く、東北地方は0.4℃小さくなり、九州南部地方では0.4℃高く、全国平均は例年値より0.1℃小さい1.5℃でした。最低気温の予報誤差は例年値と同じか例年値より小さくなり、北海道地方では0.4℃小さく、全国平均は例年値より0.2℃小さい1.4℃でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4月の天気予報の利用にあたって】

4月は比較的気象災害が少ない月ですが、低気圧が発達しながら日本付近を通過するときには、強風や大雨などの荒れた天気になって災害が発生することもあります。また、気温が上昇し雨が降ることによって多雪地域では雪どけが一層進みますので注意が必要です。このような荒天が予想されるような場合は、注意を喚起するため前日までに気象に関する情報を発表しますので、その後に発表される最新の気象情報や注意報、警報とともに留意して下さい。